

第一問（40点満点）

■採点の原則

- ①全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ②漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

問一

■形式上の不備

- ・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A

科学的な計算の上では安全が保証されていても、科学技術のシステムに信頼が置けなければ、

B

C

市民は総論賛成・各論反対の立場を取りがちなから。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「科学的な計算の上では安全が保証されていても」…2点

■要素B 「科学技術のシステムに信頼が置けなければ」…3点

■要素C 「市民は総論賛成・各論反対の立場をとりがちなから」…3点

■要素D 文末表現は「……から。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A B C

核という禁断のエネルギーに手を出し、意思疎通の困難な遠い未来の世代に負の遺産を負わせようとしているのが人類の現在の姿だということ。

- 採点方法…各要素単独採点

- 要素A 「核という禁断のエネルギーに手を出し」…2点

- 要素B 「意思疎通の困難な遠い未来の世代に」…3点

- 要素C 「遠い未来の世代に負の遺産を負わせようとしているのが人類の現在の姿だ」…3点

- 要素D…文末表現は「……こと。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素C参照

基準 配点8点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A B

多数決によって合意を形成する民主主義社会では、現在世代の合意が未来世代に不利益を及ぼすものでも有効なものと見なされてしまうという問題。

- 採点方法…各要素単独採点

- 要素A「多数決によって合意を形成する民主主義社会」…4点

- 要素B「現在世代の合意が未来世代に不利益を及ぼすものでも有効なものと見なされてしまう」…4点

- 要素C…文末表現は「…：…問題。」あるいは「…：…こと。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・ 文末表現は要素E参照

基準 配点13点

■ 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A B

リスク社会が顕在化させる未来世代との間の不公平を解消する世代間倫理の実現のためには、

C D

現在世代が自らと相互的な関係を持ちうる後続世代に対して働かせている配慮を、そのような

関係を持ちえない不在の未来世代にまで及ぼす想像力が必要だということ。(120字)

■ 採点方法…各要素単独採点

■ 要素A 「リスク社会が顕在化させる未来世代との間の不公平」…3点

■ 要素B 「未来世代との間の不公平を解消する世代間倫理の実現のためには」…3点

■ 要素C 「現在世代が自らと相互的な関係を持ちうる後続世代に対して働かせている配慮を」…3点

■ 要素D 「そのような関係を持ちえない不在の未来世代にまで及ぼす想像力が必要だ」…4点

■ 要素E …文末表現は「……こと。」が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

問五

漢字の書き取り 各1点×3

a 偏在
b 腐心
c 普遍

(一) 文科ア・理科ア 傍線部を現代語訳せよ。 【3点】

〔傍線部〕

A1 日影ながら B1 身うちぬるこそ C1 うきものなれ。

〔解答例〕

A1 日の光が差していながら B1 体が濡れるのは C1 つらいものである。

〔採点方法〕

各要素単独採点。

〔字数〕

指定なし。

〔ポイント〕

A 【1点】 日影ながら ↓ 日の光が差していながら

※「日が差している」ことがわかれば、「日なた・晴れている」等でもよい。

※「日陰」の意となっている場合は×。

B 【1点】 身うちぬるこそ ↓ 体が濡れるのは

※「濡れるのは」の意があればよい。

C 【1点】 うきものなれ。 ↓ つらいものである。

※「つらい・憂鬱だ・物憂い・嫌だ」等の意があればよい。「残念だ」は不可。

(一) 文科エ・理科ウ 傍線部を現代語訳せよ。 【3点】

〔傍線部〕

A1 初々しかりしも、**B2** 人の心に鬼なければ、

〔解答例〕

A1 会ったばかりであっても、**B2** 人の心は冷たいものではないので、

〔採点方法〕

各要素単独採点。

〔字数〕

指定なし。

〔ポイント〕

A【1点】 初々しかりしも、 ↓ 会ったばかりであっても、

※「会ったばかり・初対面・初めて・不慣れ」等の意があればよい。

※「初々しい」のままは×。「よそよそしい・人見知り」等は×。

B【2点】 人の心に鬼なければ、 ↓ 人の心は冷たいものではないので、

※「人の心は冷たくない・人の心はあたたかい・人の心は無情でない・人の心は優しい・人の心には情がある・人は情け深い・人の心は厳しくない・心根はよい」等、表現の本質を説明している場合は【2点】。

※「人の心に鬼はいない・人の心は鬼ではない・人の心は鬼の心ではない」等、表現のままである場合は【1点】。

※「人の心は無邪気だ」は×。

※末尾が「ので・から」になっていない場合は【マイナス1点】。

(一) 文科キ・理科オ 傍線部を現代語訳せよ。 【3点】

〔傍線部〕

A1 行くべきやすがもなく、 B1 年ふりたるこそ C1 口惜しけれ。

〔解答例〕

A1 出かけられる手立てもなくて、 B1 年月が経ってしまうのは C1 残念である。

〔採点方法〕

各要素単独採点。

〔字数〕

指定なし。

〔ポイント〕

A【1点】行くべきやすがもなく、 ↓ 出かけられる手立てもなくて、

※「出かける」は「行く・訪れる・向かう・赴く・訪問する」等でもよい。

※「べき」は、可能(～できる)・意志(～しよう)・適当(～のによい)等がよいが、文意が通っていれば訳に反映されていなかったり、「べき」のままであったりしてもよい。行く「はず」は不可。

※「手立て」は「方法・手段・頼り」等、また「機会・きっかけ・縁」等でもよい。「理由・拠点」などは×。

B【1点】年ふりたるこそ ↓ 年月が経ってしまうのは

※「年月(年・時間)が経つ(過ぎる・過す・経る)のは(の)も・の(が)」等でもよい。

※「年を取る・老いる」等の意になっている場合は×。

C【1点】口惜しけれ。 ↓ 残念である。

※「残念だ・くやしい・情けない」等の意があればよい。

〔傍線部〕

古郷のみおぼつかなくて、人やりならぬ道をうつらむる

〔解答例〕

A2 故郷が気がかりでならず、

B2 自分で決めた旅ながら **C1** 恨めしく思われる気持ち。

〔採点方法〕

各要素単独採点。

〔字数〕

指定なし。

〔ポイント〕

A【2点】 故郷が気がかりでならず、

※「故郷（ふるさと）が気がかりだ（恋しい・懐かしい）」「や、「望郷の念が募る」の意があればよい。

※「しきりに故郷が思われる・何かと故郷が思いやられる」でもよしとするが、「しきりに・何かと・むしように・やたらに・くされてならない」等の強調表現がない、単なる「故郷が思われる・故郷が思いやられる」は **【1点】**とする。

※「故郷に帰りたい・故郷が心配だ」等は **【1点】**とする。

B【2点】 自分で決めた旅ながら。

※「自分で決めたこと」の意があればよい。

※右の意はないが、「（人に）代わってもらえない」の意がある場合は **【1点】**。

C【1点】 恨めしく思われる気持ち。

※「恨めしい・悔やむ・恨む・つらく思う・悲しむ」の意があればよい。

文科(三)・理科(二) 傍線部「…」とあるが、何をどのように思ったのか、説明せよ。 【5点】

〔傍線部〕 ほいなけれ

〔解答例〕 **A2** 故郷へ帰る人に託す手紙に思うほどのことも書けないのを、 **B3** 不本意に思った。

〔採点方法〕 各要素単独採点。 〔字数〕 指定なし。

〔ポイント〕

A【2点】 故郷へ帰る人に託す手紙に思うほどのことも書けないのを、

※「故郷への手紙に十分な思いが書けない・故郷へ満足な手紙が書けない」の意があれば **【2点】**。

※右の意がなく「故郷への手紙が簡単(簡素)にしかならない・故郷への手紙に無事だとしかならない・故郷へきちんとした手紙が書けない」等の意がある場合は **【1点】**。

※「故郷への」の意がない場合は、それぞれ **【マイナス1点】**。「同郷の」はマイナス1点。

※「くちな手紙が書けない」の意がない場合は、「故郷への」の意があっても **x**。

B【3点】 不本意に思った。

※「不本意・本意でない・残念だ・くやしい」等の意があればよい。

文科(四)・**文科のみ** 傍線部「…」とあるが、それはなぜか、説明せよ。 【5点】

〔傍線部〕 涙ぐみなどしたる

〔解答例〕 **A2** 待ちわびていた夫や親の無事な帰りを喜び、**B3** 旅の苦労も推し量られるから。

〔採点方法〕 各要素単独採点。 〔字数〕 指定なし。

〔ポイント〕

※主体の説明である「妻子は」の有無は不問。

※この箇所の主体は、旅から帰る人を待ち迎える人々(妻・子・家族など)であるから、明らかに旅から帰る人を主体として説明がされている場合は×となる。例えば、**A**で言えば「無事に帰郷して待ちわびていた妻子との再会を喜び」は×である。

ただし、**A・B**それぞれの箇所を見て、主体が妻子側か旅人側かはっきりしない場合は得点できることとする。

A【2点】 待ちわびていた夫や親の無事な帰りを喜び、

※「夫や親の帰りを喜び・夫や親との再会がうれしく」の意があればよい。

※「夫や親」は「夫・親・父・父親・主人・主」等でもよい。これがない場合は**【1点】**。

B【3点】 旅の苦労も推し量られるから。

※「旅(道中)の苦労も推し量られる・つらい旅を想像する」の意があればよい。

※「回想」は自己の体験を思い出すことであるから、**【マイナス1点】**とする。

例 旅の苦労も回想する 〓 **【2点】**

文科(五)・理科(三) 傍線部「…」を、どのようなことを言っているのかが分かるように、言葉を補って現代語訳せよ。【6点】

〔傍線部〕

A2 国こそかはれ

(B4)

〔解答例〕

A2 国は変わっても、B4 旅から帰る人を飲み迎える気持ちは同じである。

〔採点方法〕

各要素単独採点。

〔字数〕

指定なし。

〔ポイント〕

A【2点】 国こそかはれ ↓ 国は変わっても、

※「国が変わっても・国の違いはあっても・国は異なるが・違う国でも・どの国でも」等でもよい。

また、「(陶淵明の・帰去来辞の) 東晋でも日本でも・(陶淵明の・帰去来辞の) 国とは違うが・日本か東晋かの違いはあっても」等でもよい。

B【4点】 (補い) ↓ 旅から帰る人を飲み迎える気持ちは同じである。

※「同じだ」「は」「共通だ・一緒だ・変わらない・どちらも(ともに)くだ」等でもよい。これがない場合は×。

※「迎える(待つ・再会する・久々に会う)」の主体(子・妻・家族・家の者等)の有無は不問。

※「同じである」という内容が説明できていれば3点加点。

※「旅から帰る人を飲み迎える気持ちは」という内容が説明できていれば1点加点。

(一)

b.

a ただ b 効果がない a' だけでなく (2点)

a・a' 「徒だに……のみならず」の訳 1点

※「ただ…だけでない」と言い切って、下へ続いているものは×

※「ただ…ばかりではなく」でも可

※「ただ…[・]のではなく」は、「ただ」があれば可

b 「効無き」の訳 1点

※「効果がない」で○

※「効果」は、「効き目」「効力」「効能」「効験」「効用」などでも可

※「功績」は×とするが、「功力」「功能」「功用」は辞書的にOKなので可とする。

※「意味がない」は×

(一)

d.

a 病気が治った b としても (2点)

a 「病去る」の訳 1点

※ 「病気が治る」「病気が癒える」「やまいが癒える」など○

※ 「去る」「行く」などは×

b 「～と雖も」の訳 1点

※ 「～としても」「～とは言っても」「たとえ～としても」「たとえ～ても」など○

※ 「～けれども」「～であろうか」のようでも○

(一)

e.

a 人体に病気がある b ようなものだ (2点)

a 「人身の病有る」の訳 1点

※ 「人体に病気がある」「人の体に病気がある」「身体に病がある」など○

※ 「人が病気に罹っている」のようでもいいが、「人身」と「病」の要素がないものは×

※ 「病気に罹っている」「病気」「病気が治っていない」など×

b 「猶ほ…がごときなり」の訳 1点

※ 「～ようなものである」「～ようなものだ」「～ようである」「あたかも～ようである」「ちょうど～と同じである」など○

(二)

a 治世には治世の治め方があるのに、b 乱世を救うための陰謀詭計を用いると c 身を亡ぼしかねない d から。 (8点)

a 「天下の病愈ゆるに方た」 っては「温補調護の劑」を用いる必要があることについての
言及 2点

※「治世には治世の治め方がある（のに）」「世が治まっている時は穏やかなやり方が必要（なのに）」「平時には平時のやり方がある（のに）」など○

※「天下がよく治まっている時に」「平和な時代にも」「世が定まった後にまで」「泰平の世で」「乱が治まった後にも」などでも○2点

b 「天下の乱」を「済ふ」ための「陰謀詭計の毒を逞しくせんと」すると、ということの
言及 4点

※「乱世を済うための」の要素に1点

※「陰謀詭計を用いると」の要素に3点

※「陰謀詭計」については、(注)の「ひそかなたくらみや相手をだますはかりごと」でも、「やむをえない才法」でも可

c 「何ぞ其れ身たふれて已むに至らざらん」の要素 2点

※「身を亡ぼしかねない（から）」「かえって災いを招く（から）」「危険を招いてしまう（から）」など○

※「失敗してしまうから」「うまくいかないから」など△1点

d 文末の「～から」「～ので」の有無は不問とする。

(三)

a 大黄硝石の毒が、b 重篤な患者の急場を救った効果に c とらわれる d こと。 (6点)

a 「大黄硝石」の要素 2点

※「大黄硝石の毒が」「大黄硝石が」「大黄硝石（の毒）の」など○

※「劇薬が」などでも可とする

※単に「毒が」という解答も可。

b 「重篤な」の要素の1点 「患者の急場を救った」要素に2点

※前者は「重い」「重病人」など患者の症状が重症であることが説明できているならば可。

※後者は「病を治した」「病人を救った」など○

c 「狃れ」の内容 1点

※「(～に) 味をしめる」「(～が) 忘れられない」など○

※「慣れてしまう」「依存してしまう」「又、求めてしまう」など○1点

d 文末の「～こと」の有無は不問とする。

(四) 文科のみ

a病気が良くなったら、b参朮や温補・調護の治療がよいのであって、c強力な大黄硝石の毒を用いるとd患者を危険に陥れるとわかっているeから。 (10点)

a「病去るの後に於いて」の要素 2点

※第2段落の「病稍愈ゆるに及びてや」と同義。

※「病が軽くなったら」「病気が愈えつつある時は」「病が去った後では」など○

b「之(=大黄硝石)に換ふるに参朮を以てし、温補して之を調護すれば、乃ち以て患ひ無かるべし」の要素 3点

※「参」「朮」「温補」「調護」には(注)がある。(注)の内容を用いてもよいが、そのまま用いてもよい。

※「薬草や体を温めることが大事で」「穏やかな治療に徹すべきで」「病状に合った投薬をすべきで」のようでもよい。

c「大黄硝石を用ひ」と、という要素 2点

※「毒性の強い」「強力な」「急場を救うための」のような要素は、なくても可とする。

d「身も亦随ひてたふる」の要素 3点

※解答例にある「～とわかっている(から)」はなくても可とする。

※「体にかえって害を及ぼす」「病人を死に至らしめる」など○

※「～とわかっているから」が、あるのが望ましいが、逆に、「責任を取らされるから」のような点が付け加わっているものは△-2点

e文末の「～から」「～ので」の有無は不問とする。

第四問（20点満点）

■採点の原則

- ①全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ②漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

問一

■形式上の不備

- ・文末表現は要素D参照

基準 配点5点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 失念には、単なる物忘れという意味にとどまらない、既知の知識が自明のものとは思えなく
B なるような 新鮮な面白味があるということ。
C
D

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「失念には」…1点

■要素B 「単なる物忘れという意味にとどまらない」…1点

■要素C 「既知の知識が自明のものとは思えなくなるような」…2点

■要素D 「新鮮な面白味がある」…1点

■要素E …文末表現は「……こと」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素D参照

基準 配点5点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A よく知っているはずの知識が疑わしく思えても 辞典をひかずに、何となく気掛かりな気持ちを
抱えたまま日々を過ごすとということ。 B C

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「よく知っているはずの知識が疑わしく思えても」…2点

■要素B 「辞典をひかずに」…1点

■要素C 「何となく気掛かりな気持ちを抱えたまま日々を過ごす」…2点

■要素D …文末表現は「…:…こと」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素D参照

基準 配点5点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A

辞典で以前と同じ箇所を再びひいたとしても、その言葉をたずねる心も深さも以前とは違

B

C

ずで、そこから新たに得られるものもあるから。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「辞典で以前と同じ箇所を再びひいたとしても」…1点

■要素B 「その言葉をたずねる心も深さも以前とは違うはずで」…2点

■要素C …「そこから新たに得られるものもある」…2点

■要素D 文末表現は「……から。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点5

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 知らないということは B 否定的なことではなく、 C むしろ何の先入観も持たずに対象に向き合う

ことのできる D 純粋な在り方であるということ。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「知らないということ」…1点

■要素B 「否定的なことではなく」…1点

■要素C 「むしろ何の先入観も持たずに対象に向き合うことのできる」…2点

■要素D 「純粋な在り方である」…1点

■要素E …文末表現は「……こと」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。